

平成27年度福島県立美術館運営協議会議事録

- 1 開催日時 平成28年2月25日(木) 10:30～11:45
- 2 開催場所 県立美術館2階会議室
- 3 委員数 10名
- 4 出席委員数 10名
- 5 議 題

- (1) 平成27年度工事施工状況について
- (2) 平成27年度事業実施の概要について
 - ア 平成27年度事業実施の状況について
 - イ 観覧者数等の状況について
- (3) 平成28年度事業計画(案)の概要等について
- (4) その他

6 議 事

福島県立美術館長挨拶

出席委員及び事務局職員の紹介

会長である遠藤俊博委員が議長として議事を進行した。

(1) 平成27年度工事施工状況について

平成27年度工事施工状況について、事務局が資料に基づき説明を行った。

《質疑応答》

【貝沼幹夫委員】:「今後の課題 主な工事要望箇所」については、来年度に工事を行うのか。

【事 務 局】: 社会教育課と相談、協議しながら今後実施していく。

【遠藤俊博委員】: トイレの工事箇所数は。

【事 務 局】: 23基中18基が洋式化されている。

(2) 平成27年度事業実施の概要について

平成27年度事業実施の概要について、事務局が資料に基づき説明を行った。

《質疑応答》

【清水眞砂委員】: 休館中ということで多くのところに出張して大変だったと思う。

具体的にどういう手応えがあり、今後どう活かしていくのか教えてほしい。

【事務局】：移動展は毎年、規模は小さいが行っている。今回、大きな会場での開催だったので、美術館の目玉のものを展示した。どこの会場でもまたやってほしい、できれば毎年やってほしい、ということ言われた。今後は、展示だけでなく教育普及や学校連携などと連携してやっていければと思う。

【館長】：移動展について、各館でギャラリートークをしたが、各地域に合わせたセレクションをして、ゆかりのある作家を紹介した。身近に感じ、再評価するきっかけになったと考えられる。福島県の近現代美術をカバーしてきた成果を紹介できた。福島県は広いので、いわきや会津から来てもらうのは大変。各地で美術館がなかったり、あっても施設が展示に対応できていなかったりすることも分かったり、いろいろな発見、再認識につながった。

【本保晃委員】：美術館が閉館中だったこともあって、須賀川の美術館を拝見した。多くの人たちが良い作品にふれることができよかつたし、学芸員同士の意見交換ができてよかつた。ここで質問であるが、寄贈者はどういう方なのか。次に、学芸員の調査研究と関係するが、他の美術館に行ったり、意見交換する機会はあるのか。

【事務局】：まず、寄贈者は、鎌田正蔵さん、西山勇三さんなどである。それ以外は県内ではない。石原コレクションは横浜の方である。美術館活動の中で話があつて、受けることはある。次に、他県の美術館を見に行く機会であるが、いろいろな機会に交流の機会はあるが、視察目的で出張するのは現在は難しい。

【齋藤美保子委員】：会津と二本松の移動展を見た。鎌田先生は郡山女子大にもいたが、これを機に研究が進むと良い。ブロンズは屋外展示に向くので、岩野勇三<はぐれっ子>なども芝生に置いたらよい。

【館長】：美術館らしく彫刻を置くことも将来、考えている。

【番匠あつみ委員】：本拠地である美術館が使えず大変だったと思う。今年度多くの実技講座を開催しているが、子どもたちの参加状況、参加人数が少ない。例年の傾向なのか、今年だけなのか教えていただきたい。

【事務局】：今年に限ったことではなく、震災以降、大人も子どもも減ってきている。今年はアオウゼで行ったが、十分な広報が行き届かなかつた。美

術館開館当初は、講座を行っているところがなかったが、今はいろんな所で講座を実施し、競合しているという側面もある。社会的に広がっている状況もある。

【遠藤俊博委員】：実技講座等の広報は。

【事務局】：美術館ホームページや美術館ニュースや新聞等に載せている。

【酒井昌之委員】：先生のための美術館入門、ここに参加された11名の方は、どのような感想をもったか。

【事務局】：教育センターと連携して開催している。多くの小学校から高校まで参加していただいているが、今年では会津の先生方を中心に開催した。「今までは学校で海外の有名な作家を鑑賞の教材としてきたが、地元で同じような空気を吸ってきたこんな作家がいるということ子どもたちと共有していきたい。」という意見をいただいた。

(3) 平成28年度事業計画(案)の概要等について

平成28年度事業計画の概要について、事務局が資料に基づき説明を行った。

《質疑応答》

【貝沼幹夫委員】：来年度の企画展の計画を見ると、全体的にいいバランスで期待が膨らむ。今後ともフェルメール展のようなものが年一回くらいあるといいと思う。是非とも進めていただきたい。宣伝、広報も大事なので、うまく仕組みで人の関心を引くことも大事。関連するイベントも工夫してやっていただければ。

【山口 功委員】：移動美術館、二年に一度は会津に来るようなことをしていただきたい。定期的な事業としてみていただきたい。

【遠藤俊博委員】：教育委員会としても努力をお願いしたい。

【本保 晃委員】：県立美術館は福島駅から近いので、ペナントや旗などが常時出ているような仕組みにしたらい。駅の中などでの掲示なども。

【遠藤俊博委員】：コンコースなどに掲示をご検討いただければ。

【館長】：過去にやったことはあるが、料金的なこともあり、今は最大限やれることとして、駅を出たところの福島市の敷地に看板を立てている。

【坂本節子委員】：駅で看板を見た。美術館を取り込んだ散歩コースを作ったらよ

い。

【貝沼幹夫委員】：NHKで日曜美術館をやると反響が異なる。最近ローカルなものもやっているの、山津見神社も取り上げていただきたい。

【本保 晃委員】：ご意見を伝えたい。

【星眞智子委員】：西会津の道の駅よりっせなど、いろいろな施設に、美術館のフライヤーやポスターを送っていただきたい。

【番匠あつみ委員】：フェルメール展については高校生観覧料の免除措置があるが、高校生が偶然出かけた先で見に行こうか、となっても、無料にならない。このような手続に至った経緯とはどのようなものであったのか。また、県立博物館との連携はどのように考えているか。

【遠藤俊博委員】：フェルメール展について、答えられる方はいますか。

【社会教育課】：社会教育課から回答させていただく。美術館および教育庁としては、無料の方向で検討していたが、フェルメール展は実行委員会で開催するものであり、実行委員会の中で高校生であっても受益者負担の側面から観覧料を支払うべきであるとの考えであったり、収入の確保の必要性から高校生にも観覧料を支払っていただく必要があるとの考えがあったりして、最終的には、高校生が学校教育活動の一環として観覧する場合は学校長の印を受けて免除措置を行うということになった経緯がある。ご了承いただければと思う。

【事務局】：県立博物館との連携については、可能な限り調整をしたい。

(4) その他

特になし

【議長】：これで議事を終了する。本日いただきましたご意見を県立美術館の運営に活かしていただきたい。

以上をもって、平成27年度福島県立美術館運営協議会を午前11時45分に閉会した。